

サンホセ日本人学校オンライン合同学習実施報告書

提携校：アグアスカリエンテス日本人学校

実践月日 6 月 7 日

報告者： 宮本豪

対象学年	教科	単元	合同学習形態
小 6	社会	縄文のむらから古墳のくにへ	間接

目的： 単元の学習を自分の言葉でまとめ、時代の特徴を振り返ると同時に表現力を身に付けさせる

状況	・同級生のまとめたものを見たり、聞いたりする機会がない ・誰かに読んでもらうという意識をもってまとめを書く習慣がない
----	---



手立て	①ロイロノートで歴史新聞（縄文～古墳時代）を作成し、時代の特色や自分の感想をまとめる ②互いに学習のまとめを読み合う
-----	--



結果	・各時代の特徴を再認識できた ・読み手を意識し、人々の生活の移り変わりを分かりやすく説明できた ・友達のまとめを読んで、自分とは異なる注目に関心を示していた。
----	---

「主体的・対話的で深い学び」の実現状況

※以下の項目を達成するための工夫ができたか

主体的な学び		対話的な学び		深い学び	
興味・関心を高める	○	子ども同士の対話の場の充実		教科の見方・考え方を生	○
粘り強く取り組ませる		これまでの知識・理解だけでは		かす	
見通しをもたせる		説明できない状況づくり		新たな問いや課題や考え	
振り返りをさせる	◎	授業における「問い」の焦点化		を創造させる	
		協力して解決する場面設定		考えを伝え合うことを通	◎
		外部人材、先哲との対話設定		して概念を形成させる	

れき新聞

働き者の人々

縄文時代の人々は、全員働き者で、森で狩りをして、食べたり皮を剥いで洋服にしたり海で、貝や、魚を取って食べていました。

土地を巡って

弥生時代は、米作りが始まり食料を作るようになりました。ですが、食料作りが始まったことで、食料が作れるいい土地と、食料が作れない悪い土地が出たので、人々は、土地を巡って鉄で、槍や、剣などを作った。戦いを始めました。

神様とも言われた王様

古墳時代は、ワカタケルというとても強い力を持った王様が誕生して、埼玉県から熊本県を巡るようになりました。そして、王が死んでも自分をアピールできるように古墳が作られるようになりました。古墳は、はにわや、勾玉などの宝が飾つてある王のお墓です。特に前方後円墳が古墳の中で最も多かったです。また、中国や、朝鮮から渡来人がきて、人々に進んだ技術を伝えてくれました。

前方後円墳



発行者
26年



縄文時代と古墳時代を勉強して

私は、自分たちが普通に食べている食べ物、昔は、狩りをして貝を食べるのが当たり前で、時間が経つと今度は、人々が、食べ物をつくるための土地を争っていた事にビックリしました。

■さん

古墳は大きく三つのところにあり熊本、大阪、埼玉にある。

■さん

大和地方での強いちからを持つ政府のような存在の大和朝廷

そこから近畿地方には3〜7世紀の人が自分たちの力強さを残すために、とても大きい古墳でできた王や豪族の墓

さらに季節やどんどん時が経つにつれて作り方が発展していった米作り

このことから昔の人々は食料作りの工夫や、人々でのリーダーや王・豪族ができた、今でも残るような大きな墓、建物などなど、

米作りも工夫ができたから、今も機械ができた、昔で王や豪族ができたから今の政治総理大臣が出来ているのだなと思いました。

そして昔の歴史があったから今の社会があるんだなと思いました。